



2017年度 生徒会通信NO.18

10月10日(火)

立会演説会が 近づいています!

茨木市立三島中学校

10月18日(水)6時開目

演説: 体育館 投票場所: 各教室

立会演説会前に、選挙に関する新聞記事を見つけたので紹介します。

今回の投票は茨木市選挙管理委員会から右上の写真にある投票箱をお借りすることができました!

何人かの生徒から、「投票箱があればもっと選挙の実感がわくと思います!」という意見があり茨木市選挙管理委員会に電話して借りることができました。

一人ひとりの一票が大切です。
真剣な態度で投票をお願いします!

憲法などをテーマにした旭高校の授業 9月28日、大阪市旭区



模擬投票で一票を投じる生徒=いずれも4日、京都府宇治市

「希望の党を知っている人は手を挙げて。立憲民主党ができた」とは、4日、立命館宇治高校(京都府宇治市)の教室で、社会科学の杉浦真理教諭(54)が3年生にたずねた。授業の前半は北朝鮮のミサ

憲法巡り授業 ■ 模擬投票

昨年からの選挙権年齢は18歳以上となり、政治参加の意識を高める好機として、「主権者教育」が広がっている。10代が初めて臨む今回の総選挙をテーマに模擬投票に取り組む学校がある一方、急な事態に戸惑いの声も上がる。

主権者18歳選挙学ぶ

イル問題をテーマに国連、米、北朝鮮の立場に分かれて解決策を議論。続いて今回の総選挙に話題を移し、各政党の考え方を調べることになった。直後の昼休み、ロビーには市選管から借りた本物の

急な解散 入試控え戸惑いも

大阪府立旭高校(大阪市)も主権者教育に力を入れ、地域の課題を考えて議会に出す請願などに取り組む。

3年生の2学期の授業では、憲法改正が議論されていることを踏まえ、国民投票の仕組みなどを学ぶ。急

な解散となり、政党の大阪の支部などに憲法に対する考えを聞きに行くことも計画。水谷英里加さん(18)は

「3年生は入試を控えて、総選挙を取り上げる時間がない」と話した。

記載台と投票箱が置かれ、今回の比例近畿ブロックを想定した模擬投票が始まった。若者の政治参加を促すNPO法人「Meik」の生徒有志が主体の企画で、2、3年生を対象に6日まで呼びかける。事前に配った「選挙はがき」を持った生徒が、名簿と照合のうえで投票用紙を受け取り、記載台へ。藤本穂文君(18)は「授業で習ったことを生かし、実際の選挙

にも行きたい」と話した。同校は、国政選挙に合わせる形で、模擬投票を実施するなど主権者教育に積極的だ。杉浦教諭は「社会が動くときこそ未来がどんな社会になるかを考え、政治を動かす主体に育ってほしい」と話す。同校卒業生Meikの理事の東大地さん(25)は「政治は勝手に動いているものではない。自分のこととして、とらえてもらいたい」と話す。

今回初めての一票を投じる予定で、「信じて任せられる人を見極めようと思う」。堀内美瑠さんは17歳でまだ選挙権はないが「授業ではみんな同じ資料を読んでいるのに意見が分かれて面白かった」と話した。大阪府教育庁は2016年度から、選挙や政治の基礎や実践的な内容を学ぶ授業を2年生までに5コマ以上実施するよう府立学校に求めており、主権者教育が広がりをみせている。ただ、急な解散には戸惑いの声も出る。別の府立高で現代社会を教える女性教諭は「3年生は入試を控えて、総選挙を取り上げる時間がない」と話した。

③デジタル版に動画